

2005年1月4日

米倉 弘昌 社長 年頭あいさつ要旨

昨年は石油化学、情報電子、医薬の重要な計画に着手するなど、新・中期経営計画の初年度として好スタートを切ることができた。本年は「あらゆる面で強靱な、真のグローバル・ケミカルカンパニー」の実現に向かって、より大きな一歩を進めたい。

「企業の社会的責任(CSR)」の遂行はその絶対条件でもある。当社は昨年、全社的な取り組み方針をまとめたが、もとより当社創業の理念であり、以来、脈々と受け継いできた「自利利他公私一如」という住友の事業精神は、まさにCSRの考え方そのものである。今後、具体的な活動内容を検討し、よりよい社会づくりを目指して実行していく。

グローバル化の推進は最も重要な経営課題のひとつであり、各国の経済成長にも貢献しながら、当社グループの事業を大きく発展させることが必要だ。ラビグ計画はシンガポール石油化学事業に匹敵するチャレンジングなものだが、努力が大きな成果を結ぶことを確信している。本計画に限らず今後ますます進行するグローバル化に対応し、海外グループ会社との人事交流や留学・語学研修制度の拡大など制度面での充実を図っていく。

こうした経営の方向性や課題を踏まえ、社員は特に次の点に努めてほしい。

1. 日頃から夢を描き、目標を明確に持って日々努力することにより、飛躍を現実のものとする。
2. あらゆる経営資源の無駄を徹底的に排除し、市場からの情報や顧客ニーズといった情報に対する感受性を研ぎ澄まして、業務の効率化とスピードアップを図る。
3. 絶対に災害を起こさない、起こさせないということを固く誓って、安全確保に日々、全力でチャレンジする。

当社は昨年、「創造的ハイブリッドケミストリー」の追求を通じて高収益化の実現を図るといふ、これまで進めてきた事業展開を一層加速するため、「住友化学」に社名を変更した。これまでになかった新しい有用な技術や製品を生み出し、提供しつづけることによって、人々の豊かなくらしづくりや、私たちの社会や地球環境が抱える問題の解決に貢献するという「化学」の夢の実現に向かって、新しい住友化学の歴史をともに築いていこう。

以上